

## 渚

再び潮騒が追いかけてくる、俺の虚栄を目指して  
なめるように波の平たく広い舌先が俺の背に迫る  
波が引けば残るのは小石のような孤独と  
そしてざらざらとした砂のような哀しみ  
果てしなく渚は弓なりに、曇天の下、続く

(1982.7.13)